

風のように

甘木教会

主任牧師：白川道生

牧会委嘱牧師：竹田孝一



イエスに触れていただくために、人々は乳飲み子までも連れて来た。弟子たちは、これを見て叱った。

しかし、イエスは乳飲み子たちを呼び寄せて言われた。「子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならない。神の国はこのような者たちのものである。はっきりしておく。子供のように神の国を受け入れる人でなければ、決してそこに入ることはできない。」

ルカによる福音書18:15～17

【説教要旨】

医学発展は、子どもたちにとって吉報であると同時に私たちが想像出来ない難しい病気とも子どもたちは、向かい合わなければならない残酷な出来事にあいます。

中世から近世に移るときに誕生したのが、ルーテル教会です。時代が大きく変化していく時代で、その上、ペストが大流行しており、平均寿命が30歳前後でした。それは乳児の死亡率が高いということです。ルター自身も小さな子どもを失っています。だから、その当時も、中世の前の時代も、イエスさまが生きた時代も子どもの死亡率は高かったのです。ですから、嬰兒がすくすく育つことを人々は願っていました。

「イエスに触れていただくために、人々は乳飲み子までも連れて来た。」と医者であったルカは、「こどもの祝福の物語」で、マ

ルコ、マタイが「子供」と記しているのをわざわざ「乳飲み子まで」と書いています。ルカによる福音書だけにしかない言葉です。

医者であったルカは、日々の中で、多くの乳飲み子の死を見ていたのでしょう。だから、子どもたちが神さまから祝福を受けすくすく育つことを願わざるをえなかったのです。

今日は、甘木教会が心ひとつにして、花の日の礼拝、春の子ども祝福礼拝をしています。私たちは子ども一人一人が祝福を受けて育っていくことを心から願っています。イエスさまの時代、イエスさまのような病気を癒す霊的力をもった方が現れたと知るとその方に触れて自分の子がその方の力をいただき、健康ですくすく育つこと、子どもの将来の祝福を願って、その方のもとにやってきました。

医学が発達した今でも、いや今だから何が起きるか分からない時代だからこそ、私たち、親が持つごく素朴な願いは強くなっているのではないのでしょうか。

子どもが生まれるとお宮参りと七五三に行きますね。しかし、なぜ、行くのでしょうか。人間ではどうしても出来ない出来事が、生きるにあたって起きることを本能的に知っているからです。藁をも掴む、あるいは困った時の神頼みということ です。

私たちの教会の創立者、ルターという人は、どんなに忙しくても自分の子どものために目配りをしました。

両親の最愛のものは幼い子どもであって、これは驚くべき恩恵である。

ルターは、両親の子どもに対する気苦労は大変大きいと言う

のです。しかし、同時に、これは神さまが下さった**恩恵**であると言われます。あるところでは、**最愛の宝物**であるとも言っています。

神の国はこのような者たちのものであると言われるとき、神の国とは神さまが支配されるところ、神の愛が満ち溢れた恵みのうちに子どもたちはいるのです。子どもたちは、神の愛をいただき、恵みに満ち、祝福を受けるものであると**主イエス・キリスト**は、宣言されます。主イエス・キリストの祝福を受ける存在として、イエスさまの前にたっているのです。

マルコによる福音書は、次のように加えています。

そして、子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福された。

主イエス・キリストの祝福の姿です。主イエス・キリストの喜びの姿が伝わってきます。子どもが幸せになる、これは神がお望みのことです。主イエス・キリストの喜びを誰もがかき消してはいけないし、かき消されるものではありません。すべての人が、主イエス・キリストの祝福にあるのです。子供たちをわたしのところに来させなさい。妨げてはならないと言われるように誰も子どもが祝福を受けることを妨げることはできないということです。

今日、みなさんは**最愛**の子どもを連れて来られ、祝福を願い、求めて来られました。



私たちも子どもと一緒に祝福を受けるのです。子どもが祝福を受けることによって、これは**驚くべき恩恵**を私たち大人もいただくのです。祝福の出来事は、いつも主イエス・キリストが私たちを内に抱き、私たちの日々が主イエス・キリストの喜びの内に守られている神の出来事の内を共にいきましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



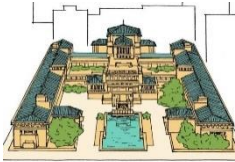
ウクライナがドローン(無人機)で、ロシアの飛行機を爆撃、破壊したというニュースが入ってきた。また同時にロシアがウクライナを無人機で空爆したという記事がある。これに人工知能 AI が使われたかどうかは分からないが、確実に一旦、得た科学技術が、凄い力をもって人類を破壊していこうとしているかが証明されている。

無人機が広い田んぼに消毒を撒いていた平凡な、平和な光景から物を破壊し、人を殺すという異常な、不安な、寂莫という光景が無人機によって起されている。

「ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」という神がアダムに言った言葉を思い出す。無人機を使うかどうか、それがどんな悲劇を生み出すか想像できない人は、「善悪」を人の手に持った。次は原子爆弾使用の善悪の判断が近づいている。



園長・瞑想？迷走記



帝国ホテルを設計したライトと幼稚園と名を残した幼児教育者フレーベルとはつながっていることに初めて気づかされた。よフレーベリアンだった母に育てられた。「母アンナは園児一人のフレーベル・システムの幼稚園を家の中に作ってやった。ライトは後年、しばしば母親を思い出し、彼女によって実行されたこのフレーベル・システムの教育が、彼の建築活動の根幹となっていることを、感謝の意をこめて述懐している。……フレーベルの恩物によって、彼のデザイン感覚の基礎が固めていった。」①とある。ここで幼児教育がどんなに子どもに影響を与えるかを私たちはライト、フレーベルの関係から知る。そういう風にライトのデザインを見ると『認識の形式』や『美の形式』さらには『生活の形式』が遊戯を通して教育された作品だとみるとまた面白くなる。どんな幼児教育を受けたかによって人の将来の世界は変わってくると強く思った。

(引照①、参考：「フランク・ロイド・ライト 谷川正己著 鹿島出版」)

日毎の糧

神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。
苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。



詩篇46：2



ルターの言葉から

そこで、あなたは理解する。神を信じる（信頼する）ということは、つまり、悪魔やこの世の作りだすすべてのもの、貧困、不幸、恥辱、罪などに挫けない寛容な心をもつようになることなのである。

『ルターの言葉 信仰と思索のために』W.シュパルン編 湯川郁子訳 教文館

ご自分を確かに現わされる方

「必ずそこにいまして助けてくださる」という表現は、詩編46篇の独自の言葉です。左近先生は、ここを「ご自分を確かに現わされる方」と訳します。

天地がひっくり返るような危険な時にも、ご自分を確かに現わされ、助けてくださる神こそ、私たちの神であると信じるわたしたちは、それゆえに「わたしは決して恐れない」と信頼表明をするのです。

《共にいます神》の臨在によって（危機と苦難が）安心に変わるのが、聖書の信仰です。神の民のイスラエル人がたどった歴史は、私たちのたどる歴史です。出エジプト、バビロン捕囚も、民族の危機で、苦難でした。しかし、危機と苦難の中で、神は、「ご自分を確かに現わされる方」であったことを歴史は教えています。

70年の私の歴史を振り返ることがこの頃、多くなりました。そして、よくもここまで歩めたという実感が私に返ってきます。イエスさまに捉えられるまでは、いつも危機と苦難のとき不安と嘆きでしたが、同じような危機と苦難にあっても、私は一人でない必ずそこにいまして助けてくださると実感が出来るようになりました。 参考文献：「詩編研究」 左近淑 新教出版

祈り：ご自分を確かに現わされる主よ、あなたと共に歩める幸いを感謝する日々でありますように。アーメン。

甘木通信

「時代の終わりを感ずるとき、感謝の時」



私たちの子ども時代の英雄だった野球選手だった長嶋茂雄氏が天に帰られた。自分の人生も一つ終わったと強く感じる寂寥が襲ってくる。老いることを老いていることを英雄たちの死を通して感じる。英雄と歩んだ過去は、手の届かないところに過ぎ去り、取り戻すことができない。しかし、マイナスのことばかりでなく、英雄を通して心おどらされ、元気にさせられ、未来に希望をいただいたことを感謝せざるをえない感謝への心が起きてくる。「長嶋さん、ありがとう」と。

老いるとは自分の人生が多くの人に支えられてきたということを強く感じ、感謝できるときでもあると思う。過去を振り返る時、父母にどれだけ迷惑をかけたか、ここまで生きる体をくれた多くのことを父母はくれた。ただ感謝しかない。子どもを育てるには大変だと思うしかなかったが、今は逆に大変だったことも感謝の気持ちで受け止められるようになった。出会った多くの友人、先生・・・、多くの物をいただいた感謝。手紙、メールの言葉に「感謝」という言葉が自然にかけるようになった。こんな気持ちになれたのも「若い時に造り主を覚えよ」というように若い時に神を知り、ここまで信仰生活を歩めたからではないかと思う。過去を恨むのではなく、感謝は神の賜物であると思う。

(甘木日記)土) 早朝、久留米教会の納骨堂の掃除、夏の花の移植に行く。

夜は蛍狩りに信徒さんに連れていただく。体調は最悪だが温められる。

日) 礼拝前に隣のおばあさんと会話。礼拝後は納骨式の行われる隣の教会の納骨堂前に玉砂利を信徒さんとひいて整備。隣は無関係ではない。月)

移植した花の苗には恵の雨がそそぐ。火) 午前中は雨、午後から青空の下で、預かり保育の子どもが元気に遊ぶ。水) 真夏に一日中、朝顔、インパ

チェンス、日日草を植えて園庭内外を整える。木) 羽村幼稚園の決算の分析、風呂の天井の黴取り、甘木教会で花の日の礼拝式文印刷、ラベン

ダーの植え替えとよく動く。金) 今週も九州大学病院に通院で終わる。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）直接、お会いしてはいないが、親子2代に渡って支えていただいた日善幼稚園の前運営委員長であったKさんの納骨が行われというので、前日、納骨堂の周りをIさんが草取って下さっていたので、お二人が気持ちよくここに眠られるように早朝、感謝の気持ちをもって祈りつつ、掃除、花植えに出かける。疲れ、一眠りをして、甘木に行く。体調が最悪。そんなとき夜、蛍狩りにてくださる。小さな蛍の光しくなり、疲れも溶けていく。甘木・泊。日）5時半にんと一緒に道路掃除をする。てご主人と別れの最後の話。いブドウを食べてもらったことでなくても良いというご主人聖餐式礼拝。日善幼稚園前運に、これまで納骨堂前に玉石花を付けた玄関の植木鉢（甘木教会のクルミの木とドクダミ）を置く。そのため



信徒さんが連れていを見ながら光が愛おたような気持ちにな起き、隣のおばあさ腰が痛いこと、そして食べられなくなり高と。そんな高いものの優しい言葉・・・。営委員長の納骨式前を敷き整え、大きな



（納骨堂前）れた。感謝。一人では何も出来なくなった。月）体調が優れないが、朝から幼稚園をどうすればより良くしていくかということしか考えずにいるとさらに体調を悪くしていつてい。そんなとき雨が降り、人の思いを越えて植えた花の苗の命を育てくれる。「野の花を注意してみなさい」と神は語りかけム）ている。火）午前中は雨、冬を頑張って植え替える。午後から青空の下で、預かり（インパチェンス）保育の子どもが元気に遊ぶ。水）一日中、夏花の移植をしている。今年は白と赤に統一。真夏日。木）長男より、朝、「暑くなるようなので気をつけて」とメールをもらう。嬉しい。早朝から羽村幼稚園の2024年度決算の分析の園長補佐とやりとり、風呂の天井を見ると黴だらけ、これを掃除し、マッサージに行き、甘木教会へ。電車の中で本を片手にもって眠ったまま。花の日の礼拝式文印刷、ラベンダーの植え替え。夏日、根が着いてくれると嬉しい。金）今週も九州大学病院の通院で終わる。人生の最後に大学病院に行くとは想像もしていなかった。病院は昔と違い明るく綺麗。



（日日草、ゼラニウ）れたすみれを